

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号 6310 学校名 関商工高等学校（定時制）

学校教育目標 (教育方針)	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の向上と自ら学び自ら考える力を養い、基礎学力の定着と自己実現を目指す生徒 ・基本的な生活習慣と、豊かな人間性と社会性を身に付けることを目指す生徒 ・社会人としての資質を身に付け、卒業後に地域の社会人として貢献できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・学び直しの環境を整え、わかる授業、学ぶ楽しさを実感できる授業を通して、学習意欲の向上と基礎学力の定着を目指す ・欠席・遅刻・早退の防止など、社会人としてのマナーや規範意識を身に付けさせ、基本的な生活習慣の定着を目指す ・外部とも連携し自己肯定感を養い、生徒の勤労観・職業観と社会人としての資質の育成を目指す
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が心の居場所と捉え、学校への帰属意識を高めるとともに、学習意欲を高め基礎学力の定着を目指す生徒 ・卒業後に地域の社会人として貢献するため、勤労観・職業観とコミュニケーション能力を高めようとする生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自己実現へ向けた学習意欲の希薄 ・基本的な生活習慣と規範意識等の欠如による、欠席・遅刻等の増加 ・社会人としての資質の欠如 ・工業科の定時制に対する、地域や中学生生徒・保護者からのニーズの変化 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の自己実現を見据えた、基礎学力の育成と学習意欲の向上
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・健全な生徒の育成に向けた、基本的な生活習慣と規範意識等の習得
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会人の育成に向けた、社会人としての資質の習得
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の将来ビジョンを見据えた、地域や関係機関等との連携 	

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学習指導	・学習レベル・能力に応じた少人数指導、読み書きが不得意な生徒への配慮による学習意欲の向上	23	施策Ⅳ-23 授業評価・アンケート職員連絡会
	・学び直しの機会を積極的に設け、義務教育段階の学習内容の定着を図る	23	施策Ⅳ-23 授業評価・アンケート
	・ICTを活用した授業展開により、生徒の理解度を高めるとともに、利活用できる力も育成する	9	施策Ⅱ-9 授業評価・アンケート
	・魅力ある教育課程や学校行事等を運営し、常に生徒の出席を促し、学校への帰属意識を高める	1	施策Ⅰ-1 アンケート、職員連絡会 家庭との連携
生徒指導	・多様な生徒と向き合い、基本的生活習慣を身に付けさせるため全職員共通理解で指導にあたる	1	施策Ⅰ-1 各種調査・アンケート 職員連絡会
	・家庭や地域機関と連携して、悩み相談や問題の未然防止にあたる体制を整備し、常に実践する	7	施策Ⅰ-7 家庭・地域機関との連携 各種調査、職員連絡会
	・欠席・遅刻等の減少に向け、全職員で早期対応するとともに、適宜全校生徒への啓発を実施	1	施策Ⅰ-1 家庭との連携 出欠統計、職員連絡会
進路指導	・1年次からのキャリア教育実践により、正しい勤労観・職業観を育成する	13	施策Ⅱ-13 授業評価・アンケート
	・外部機関とも連携し、適正な進路実現に繋げるとともに、離職率の減少に向けた資質の育成	13	施策Ⅱ-13 外部機関との連携 卒業生の追跡調査
	・ものづくりの興味・関心の醸成を常に追求し資格取得の向上や、製造業への就職率を上げる	10	施策Ⅱ-10 職員連絡会 各種資格取得
	・欠席・遅刻等の減少が社会人としての重要な資質と捉え、職員共通意識で生徒への指導にあたる	1	施策Ⅰ-1 家庭との連携 出欠統計、職員連絡会
学校経営	・将来の魅力ある学校づくりに向け、地域等のニーズや具現化するための情報収集にあたる	20	施策Ⅳ-20 アンケート、職員連絡会 外部・地域機関との連携
	・学校や地域に愛着を持ち、地域から応援される学校・生徒を目指すため清掃活動等を企画する	4	施策Ⅰ-4 アンケート、職員連絡会 HPによる情報発信
	・中学生期の不登校・発達障害等の生徒に対する支援・指導について全職員で研修し実践に繋げる	23	施策Ⅳ-23 中学校・地域との連携 職員連絡会、職員研修
	・学校行事や各種式典等の重要性を常に促し、欠席・遅刻を減らし地域社会人の基礎を育成する	1	施策Ⅰ-1 家庭との連携 出欠統計、職員連絡会

年度末評価(自己評価)				
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D	
・漢字にルビを振り、問題も選択式にする等の配慮を行った	B	・個々のレベルの差はあるが、概ね意欲的に取り組み理解している	B	B
・式変形や因数分解を繰り返すなど、丁寧な指導を行った		・個々のレベルの差はあるが、概ね意欲的に取り組み理解している		
・ICT機器を積極的に活用し、アプリケーションを活用した授業も行った		・スマートフォンの普及により、どの生徒も抵抗なく扱うことができる		
・将来も見据え、生徒が興味・関心を示すような魅力あるカリキュラムを考えている		・課題は多いが、成果として現れるのには長いスパンで見えていく必要がある		
・生徒に対して粘り強く寛容な対応に心掛け、過ごしやすい学校環境づくりに努めた	B	・生徒の自己肯定感を高める一方で、社会性を伸ばすための工夫が必要である	B	B
・支援が必要な生徒に対して、保護者や外部機関と連携をとり、積極的に指導した		・長期欠席していた生徒を再度、継続的に登校させることができた		
・登下校時の声かけなど、継続的な呼びかけにより生徒への啓発を行った		・不登校は減少したが、安易な欠席や遅刻に対する指導を工夫する必要がある		
・5月末に校外学習(企業見学)を実施	B	・4年生は就職試験を控えて勤労観や職業観を身に付けることができた。1～3年生は地域の地場産業や地域の職場を知ることができた	B	B
・11月に開催される関の工場参観日の啓蒙		・自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てることに繋がった		
・6月に外部講師による進路講話の実施		・12月時点情報技術検定3級に2名、計算技術検定3級に1名が合格、今後危険物取扱者乙種4類を受験する予定の生徒がおり、合格に向けて職員で指導していく		
・就職試験に向けた面接指導の実施		・各自が今までの高校生活を冷静に振り返り、今後目標とする社会人になる事を考える良い機会になった		
・面接試験に向け、社会人と高校生の違いを考えさせた	B	・ニーズに応え得る教育課程等変更について一定の評価は得られたが、今後も手厚い指導への要望は強い	B	B
・魅力ある教育課程等へ見直しを実施した。その方針等を地元中学校へ向き説明し、併せてニーズも収集した		・園児が遊びで使用する木工製品を寄贈し好評をいただいた園児より感謝の言葉をいただき、今後も交流を継続したい		
・地元の幼稚園と連携して、園からの要望に応えるため授業で作成した作品等を寄贈した		・収集した情報を適宜、保護者と共有し支援に繋げた。今後も多様な生徒への支援に向け、職員研修の充実を図る		
・発達障害等の生徒理解・支援に向けて外部機関と連携し情報収集・共有を実施した		・昨年度と比べ改善傾向が見られたので一定の成果はあったが、全職員で取り組む体制が課題		
・学校課題解決に向けて、学校行事や式典等を中心に、折に触れて生徒に啓発を実施した				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和6年12月11日

<p><学習指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力に応じた基礎学力定着のための学習指導方法と教材研究に引き続き取り組む。 ・専門教科への興味・関心を高め、目標を決めて主体的に学習に取り組む体制をつくる。 ・授業への心構えを向上させ、生徒がICT機器を活用できる授業の推進に取り組む。 ・コミュニケーション能力を身に付けるための指導をさらに工夫する。 <p><生徒指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導だけでなく、他の分掌とも連携をとりながら、多角的なアプローチで生徒指導を行う工夫をする。 ・HR担任の個性を活かしたクラス経営を尊重しながら情報交換を更に密にすることで、組織的な指導体制を整える。 ・適切な助言や指導を与えることで生徒の社会性や規範意識を高め、協調性のある集団生活づくりに努める。 <p><進路指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に寄り添った指導を行い、多様化した生徒の能力や適性を把握することで、適切な進路情報を適宜伝えることが大切である。 ・保護者懇談の機会などに地元の企業からの求人状況を伝え、卒業後の進路実現につなげる必要がある。 <p><学校経営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある教育課程・科目の実施に向けて、内容の精選と展開。地元中学校への説明・広報は早期に広く実施。 ・卒業後の地域社会人の育成に向け、生徒の欠席・遅刻等の減少への取組みを継続する。今後も生徒一人ひとりに寄り添い、手厚い指導を継続することが大切であるが、全ての取組みについて、全職員共通理解の基に生徒の支援・指導を実践することが最も重要である。

学校関係者評価

実施日：令和7年1月31日

<p><学習指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒等に対し、一人ひとりに寄り添い、活躍や達成したことに褒める指導を心がけてほしい。 ・生徒への指導をスモールステップで、長い目で粘り強い指導・支援により伸ばしてほしい。 ・地元関市についての「ふるさと教育」を推進し、各教科の中にも取り入れ地域連携に繋げてほしい。 ・生徒が学校に来たいと思えるよう、外部とも連携して魅力をつくってほしい。 <p><生徒指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害等の生徒への対応を、入学年度等の早期からの対応を実施してほしい。 <p><進路指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人でも多く、地域社会に貢献できる生徒を育ててほしい。 <p><学校経営></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全日制と定時制の交流も図っていけると良い。
--